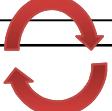
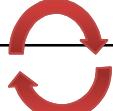


## 国のアレルギー疾患医療提供体制のイメージ

**中心拠点病院**  
(成育/相模原)

**県拠点病院(群)**  
(都道府県毎を想定)  
↓  
1~2か所程度／県

臨床	情報提供	研修	研究
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な医療 (専門医等による診断と治療方針の決定)           <ul style="list-style-type: none"> <li>- 重症例</li> <li>- 診断困難例</li> <li>- 多科連携が必要な例等</li> </ul> </li> </ul>	<p>情報センター事業(仮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイト</li> <li>・メール相談 (医療従事者向け、一般向け)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医向け研修会</li> <li>・研修教材作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学研究</li> <li>・臨床研究</li> <li>・基礎研究</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者相談 - セカンドオピニオン外来等を利用等</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現体制での通常診療 - 紹介・逆紹介の徹底</li> <li>・転院時連携の実施等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師向け研修会</li> <li>・コメディカル向け研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心拠点との連携協力体制</li> <li>・県拠点病院(群)間での連携協力体制</li> </ul>

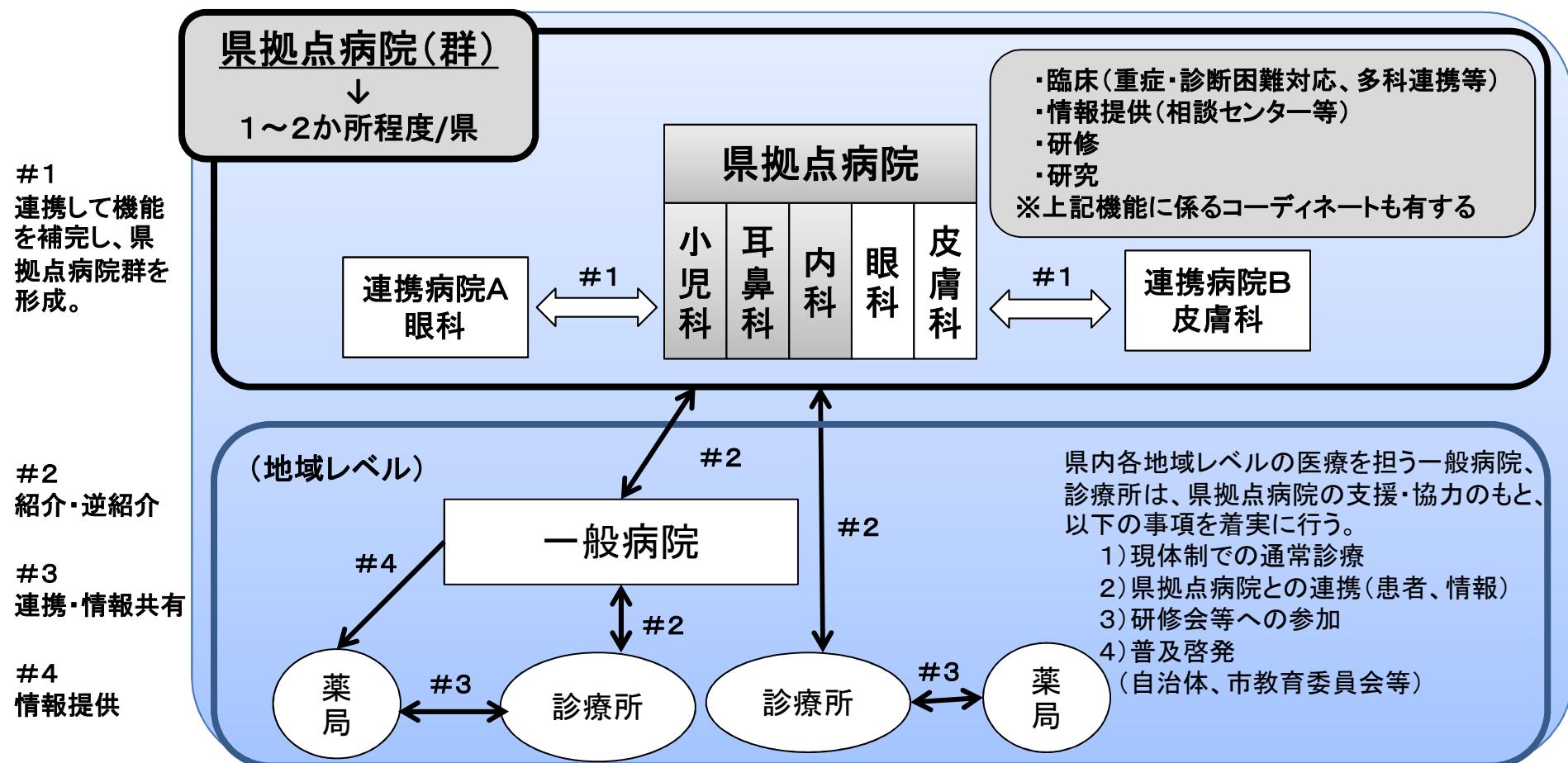
(アレルギー疾患医療の在り方に関する班会議(H28年厚労科研海老澤班)報告書(一部改変))

### 全国拠点病院連絡会議(仮)

- 全国の県/中心拠点間での情報共有、意見交換
- アレルギー疾患対策推進協議会と連動

## アレルギー疾患医療提供体制に関する議論のたたき台

## 都道府県のアレルギー疾患医療提供体制のイメージ



## 都道府県地域連絡協議会(仮)

- 各都道府県において、拠点病院を中心とした診療連携体制、人材育成、情報提供等が円滑に進むよう協議を行う場が必要ではないか。
- 協議会はどのようなメンバーで構成すべきか。

# 県拠点病院に求められる役割(例)

		臨床	情報提供
小・成 共通	アレルギー全般	アレルゲン原因同定(環境・食物・薬物 等)・検査・管理	診療所・一般病院との病診・病病連携(診療情報提供資材の共通化)
		アレルゲン免疫療法実施(舌下・皮下)	地域拠点病院間での連携
		アナフィラキシーの包括的な専門診療	一般患者への情報提供および講演会の開催
		アレルギーを診察する他科との連携 (周辺疾患の鑑別、症例検討等)	患者の医療相談への対応・セカンドオピニオン
	気管支喘息関連	急性発作管理	アレルギー疾患診療可能施設の情報提供
		肺機能検査・気道過敏性試験・NO測定等	医師・コメディカル・行政への情報発信
	皮膚領域	重症アトピー性皮膚炎の管理	研修
		接触皮膚炎のアレルゲン同定	初期臨床研修医に対する指導教育
		刺激誘発性蕁麻疹の誘因の確定	専門医の育成
		重症薬疹の治療	アレルギー診療連携登録医(仮称)の研修会
		遺伝性血管性浮腫など、生命に関わる蕁麻疹の診断と治療	専門的なコメディカルの育成
	耳鼻咽喉科領域	アレルギー性鼻炎の正確な診断	コメディカルとの研修会
		下気道、眼、皮膚疾患に影響する鼻・副鼻腔疾患の診断、治療	行政・教育機関との連携・助言
小児	眼科領域	重症および難治アレルギー性眼疾患の診断・治療	研究
		重症アレルギー眼疾患に対して外科的な処置やステロイド注射	
	食物アレルギー関連	食物経口負荷試験(運動誘発を含む)	
成人	気管支喘息関連	重症例の長期管理	中心拠点との研究協力体制
	食物アレルギー関連	経口免疫療法	大規模疫学研究の推進
成人	重症難治アレルギー性呼吸器疾患	中等症から重症の気管支喘息長期管理	臨床研究(多施設等)の推進
		気管支鏡検査実施可能(検査医師在籍)	基礎研究との連携